

# 第30回FF日本大会 in 愛媛 グループ討議まとめ

開催日時:2018年10月14日 15:30-16:45

開催場所:大和屋本店 2F「大和の間」

参加者:203名 グループ数:26(各グループ7-9名)

## テーマ<より良きホームステイを目指して>

健康問題やホームステイについて、あらかじめ各クラブからアンケートをとり、いただいた回答をまとめた「アンケート回答集約」に基づいて、議題を下記のように提起。各グループで活発な討論が行われた。以下はその要約である。

### 1. 健康問題

#### (1)アレルギーや宗教上で食事制限のあるアンバサダーを受け入れたことがあるか？

##### \* その際に困ったこと

- ・近年とみにアレルギーの人が多くなった。
- ・事前報告と実際に来たときの内容が違うことがあった。
- ・事前には何も言わないで、来てみれば、アレルギーだ、ベジタリアンだと言われて困った。
- ・アレルギーの程度が分からない。
- ・自分で調味料を持参した人もいるが、それを使ったレシピがわからなかった。
- ・別に用意していたのに、自分だけなぜ違うかといわれた。

##### \* 工夫したこと

- ・スーパーに連れていき、自分で食べられるものを買ってもらった。
- ・アレルギー内容を聞いたうえで献立を作った。
- ・自分で調味料を持ってきた。グルテン抜き食材を持ってきた。

##### \* 改善策

- ・あくまで自己責任として対処し、あまり神経質になる必要はない。
- ・前もってのメールのやり取りでうまくいった。
- ・HG/ACの間で連絡を密にし、必要なことは事前にマッチングリスト等に、明記する。必ず申告する。
- ・日本と外国ではアレルギーの意識が異なるため基準を決めておく。
- ・宗教上の食事制限については、受け入れ側も知っておく必要がある。
- ・ハラールやビーガン用の食材に対応できるレストラン等も調べておく。

#### (2)病気、怪我の実態と処置

##### 《渡航時》

- ・渡航先の環境が不衛生であったり、現地の水事情に不注意で下痢
- ・ロシアで足にけがをしたが、粗末な病院で傷の縫合も酷く、帰国してから縫い直した。
- ・階段から落ちた。テーブルにぶつかって怪我をした。

・体調不良や風邪

- 上記いずれの場合も受診は保険で処理できた。ただし、英語等、医師とのコミュニケーションや、保険指定の病院を探すのに困ったこともあった。

#### 《受入時》

- ・糖尿病で1日3回注射をしなければならない人のために外出時に場所を探すのが大変だった。
- ・インスリンを持参してきたのだが、英語が不十分で保存方法を冷蔵か冷凍かで間違え大惨事になるどころだった。
- ・足が痛くなって整形外科に連れて行ったり、訪日前に手術で縫合して、抜糸をしないまま来日したゲストがいた。
- ・無呼吸症候群で呼吸器持参の人がいた。
- ・心臓病なのに大丈夫だと言って、来てから発作が起きて大変だった。
- ・本人は気づいていないが認知症の症状がでていた。
- ・事前には知らされず、来てみればパーキンソン病の人がいた。
- ・眼底出血
- ・疲労
- ・病気が保険で対応できないことがあった。
- ・健康チェックをきちんとしてほしい。書いてあることと違うことが多々ある。
- ・交通事故。

- 上記の受診の場合は、クラブのかかりつけ医や、クラブ員の知人の医師に連れて行っただが、病院に行きたがらない人もいた。費用が心配だったらしい。必ず保険に入ってきてもらう(できれば治療費無制限)。自分が服用している薬の情報はもってきてもらう。自分で判断して無理だと思えば来日をキャンセルしてほしい。

※(1)(2)ともに、事前の情報交換が重要。AC/HCは連絡を密にし、ACはアンバサダーの健康状況を把握し、HCに連絡。HCはホストとその情報を十分に共有し理解して受け入れることが肝要。そのための情報伝達手段として、現行の Matching List や、Health & Mobility Check List では十分記載できないのでは？札幌クラブは独自のリストを作っている。

## 2. ホームステイ

### (1)プログラム・問題点・改善案

#### 《渡航時》

- ・ハードスケジュールよりフリーデイのあるゆとりのプログラムがよい。
- ・ソウルに行ったとき、1泊、ホテルにホストと一緒に泊まったが、気分転換になってよかった。
- ・メンバーのいろいろな家庭を訪れてよかった。
- ・美術館とかの施設ではなくごく自然な近隣の人々との関わりができたのがよかった。
- ・ピクニック・バーベキューが楽しかった
- ・ロシアでは田舎だったので新聞に掲載された。
- ・毎晩ホームパーティーがあった。
- ・外食費をとられた。

- ・運転が心配(酒気帯び、高齢化)
- ・ホームステイではなく、コンドミニアムに宿泊した。
- ・直前まで受け入れホストを覚えてもらえなかった。
- ・途上国のクラブは事前の連絡が密でない。文化や風習の違い？
- ・AC が全責任を引き受けるのは困難なため、役割分担して全員で渡航準備をしている。

#### 《受入時》

- ・地域に基づいた受け入れをする。
- ・観光より体験型
- ・Yes ,No は、はっきりいう。
- ・ウエルカムパーティー、フェアウエルパーティーなどホストに負担がかからないものに改善している。
- ・見学するところはたくさんあるのだが、フリーディは2日間にするように検討中。
- ・ディナーホストなど、分担してホストの負担を減らす。
- ・温泉企画は人による
- ・着付け・茶道・折り紙・習字・小学校訪問等、好評
- ・2 週目と重ならないよう HC 同士が連絡を取り合うとよい。
- ・バスツアーはバス代が高額のため費用が問題—エクストラフィーは実費をもらう。
- ・事前にゲストの希望を聞く。
- ・オプションをつける。
- ・プログラムを会員で分担して担当する。
- ・英語ができなくてもホストは出来る。かえって気持ちの交流ができることもある。黙るのが一番よくない。無理をしない。絵を描いて交流して楽しんだ人もいる。
- ・笑顔とアイコンタクト

※受け入れプログラムを組む際、今回実施した海外アンケート回答(アンケート回答集約 P12)や、渡航時に良かったこと、いやだったこと、あるいは受け入れ時の他クラブの試みなどを参照してもらえるとこの討議が生きてくるとおもわれる。

#### (2)シェアホストについて

- ・郡山は前半と後半にわけ真ん中にパーティーをいれている。
- ・高齢化により1週間の受け入れはきついと感じているホストも多い。
- ・ホームステイをしてもらいたいというホストが多いのでシェアしている。
- ・大阪はメインホスト 3 日、サブホスト 2 日を実施。
- ・ケースバイケースだが、事前に連絡を取り合っていれば問題はない。
- ・アンバサダーに不快な思いをさせた。
- ・移動が大変だった。

※会員の高齢化に伴いホストの負担減は必須。意見は様々だがシェアホストについては真剣に考える必要がある時期ではないか？

### (3)その他の意見

- ・本来の FF の精神ではなく観光化しているのではないか。
- ・高齢化に伴い受け入れホストが減少—デイホスト、ディナーホストで負担軽減
- ・受け入れ時どこへ行きたいという要求が多く、安い宿代わりのように感じる。
- ・交流が一過性になる。帰国後一切連絡のないゲストもいた。
- ・家が狭くても受け入れはできる。
- ・子供が小さいうちから受け入れをしているので、グローバルな視点を持ち、日本文化等の良さを認識している。
- ・その後の付き合いが続き、被災のとき、うちにおいでといわれた。

※原点に戻り、FF の活動の意味を考える。事前に情報を伝え、双方、十分な理解の上で、渡航、受け入れをする。

## 3. English Language Learning

- ・楽しいので、回数を増やしてほしい。
- ・他クラブとの交流があり再会が楽しみ。
- ・ホストが意識してレッスンしてくれる。
- ・基本は交流であり learning はプラスアルファ—だと考えている。
- ・2 週間は長すぎると考えている者もいる。
- ・恒例の渡航参加者が減る(経済的に2つは無理)英語研修を取るか、国際交流を取るか迷ってしまう。

## 4. 会員増加への取り組み

- ・学校訪問—若い人たちとの交流
- ・子育て中の人を準会員として入会してもらおう。
- ・1 年間のお試し入会—会費半額、受け入れの際デイホストをしてもらおう。
- ・友達を誘う。
- ・クラブ内で様々なイベントを実施—英会話・コーラス・ハイキング・絵画・カラオケ・渡航で習った料理の講習・トークサロン・ゴルフガーデニング・マジック・日本の伝統行事
- ・とにかく楽しくする。楽しければやめない。増えるはず。
- ・PR—他の国際交流クラブとの交流やそこでの PR
- ・メディアを使う—受け入れの度に、新聞社に連絡、掲載されている。
- ・会の運営の見直し。一部の人だけに負担をかけない。役割分担を細かく分ける。
- ・クラブ間で活発な意見交換をする。

※各クラブとも高齢化が進み会員数も減少気味。会員同士の交流、若い人たちを取り組むためのイベントなどを企画し、会員増加のための工夫・模索をしている。FF 創立時の原点に戻り、FF 活動の意義を改めて考える。それを伝えるために、メディアの利用、地域での交流等、積極的に働きかける。  
とにかく楽しく FF 活動に取り組もう！